

燦々

SANSAN
光り輝く



JAとまこまい広域杯少年サッカー大会(安平町にて)

特集 准組合員イベント「秋のいも掘り体験」開催
体験を通じて農業を感じる

JAとまこまい広域広報誌
燦々光り輝く
No.274



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241 FAX 0145-273941
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2

令和7年10月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomaikouiki.com
info@ja-tomakomaikouiki.com

印刷 株式会社 須田製版

AUTUMN CHOKIN CAMPAIGN 2025

秋の貯金

キャンペーン2025

JAバンク

9/16火～11/14金

組合員の方または
新たに組合員加入いただける方

スーパー定期貯金

20万円以上の新規または純増(自動継続)
1年定期

0.300%

(※2025年8月25日時点、1年定期貯金店頭表示金利:0.275%)

PRESENT!
他銀行等からの
新規預け入れ金額が
300万円以上で

広域産
お米 5kg
(お一人様1回限)

プレゼント

●お米プレゼントのみ、他銀行等からの新たなお預入れ資金とします。
●自動継続後の適用金利は、自動継続日における店頭表示金利となります。
●ATM、ネットバンクでのお預入れは対象外となります。
●お利息は20.315%(国税15.315%、地方税5%)の源泉分離課税が適用されます。(マル優を除く)
●やむを得ず中途解約された場合は、当JA所定の中途解約利率が適用されます。
●組合員加入をお申込みいただける方は、当JA地区内に住所を有する個人、または勤務先が当JA地区内の方となります。
●組合員加入お申込に際しては、1口1,000円以上の出資金をお預かりいたします。

年金受給者優遇定期

ほほえみ

対象 JAとまこまい広域で口座を開設し、そのお口座で年金をお受け取りになっているお客様。または、JAとまこまい広域で年金受給のご予約された満50歳以上のお客様。

その他 他の優遇定期貯金とは重複できません。

詳しくは窓口まで
ご相談ください!

スーパー定期貯金

お1人様 500万円まで

預入期間 1年

特別優遇金利

0.30%

2013年1月1日から2037年12月31日までの間は、20.315%(国税15.315%、地方税5%)の分離課税となります。

JAとまこまい広域

ホームページ <http://www.ja-tomakomaikouiki.com/>

苫小牧支所	☎0144-84-5117	早来支所	☎0145-22-2525
厚真支所	☎0145-27-2241	追分支所	☎0145-25-2525
白老支所	☎0144-82-2266	穂別支所	☎0145-45-2211

燦々

SANSAN
光り輝く

No.274 CONTENTS

- 01 特集 准組合員イベント「秋のいも掘り体験」開催
体験を通じて農業を感じる
- 03 カメラレポート
- 07 ・米の受け入れ開始
各部署より職員が応援に
・JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部
令和7年度産米初検査
- 08 令和7年11月からの営業時間一覧表
- 09 理事会報告
- 10 期待の農力 小林広和さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ

裏表紙 JAバンク 秋の貯金キャンペーン



10月5日、安平町のはだしの広場にてJAとまこまい広域杯少年サッカー大会が開催。196名の少年少女がサッカー大会を通じて農業への関心を深めた。



▲堀組合長による開会挨拶



▲いも掘りの様子①



▲いも掘りの様子②



▲いも掘りの様子③



▲集合写真

JAとまこまい広域は8月30日、准組合員向けのイベント「秋のいも掘り体験」を開催した。同イベントは管内厚真町鯉沼地区で畑作を中心に経営する工藤英暢さん(61歳)のメークイン圃場で行われ、親子連れなど総勢79名が参加した。

開催にあたり堀弘幸組合長は「日頃より金融・共済をはじめとした当JA事業をご利用、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。このような機会を通じて農業とのつながりを感じてもらえればと思っております」と挨拶。自らスコップを使っていもを掘りやすくサポートし時折話しかけるなど、参加者と交流を深めともに汗を流した。

応募多数により8月上旬の抽選会で当選した参加者は、自車または送迎用のバスで各地より厚真町に集結。同JA本所駐車場横の米検査場下屋にて受付を行ったのち、いも掘り会場へと足を運んだ。開催日付近は不安定な天候が続き当日も雨が心配されたが、圃場条件も問題なく無事開催に至った。参加者はJA共済連提供のタープで各自休憩を取りながら、終了の時間がくるまで袋いっぱいいもを詰めこんだ。親子で参加した准組合員の方は「子どもたちが一生懸命掘っていてとても楽しんでいた。普段できない貴重な体験ができるイベントに参加できてよかった」と話す。

同JAは道内で4番目に多い人口を抱える苫小牧市を中心に、多くの准組合員が加入している。今年で8年目を迎える同イベントは、農作業体験を通じてJA事業や地域農業に対する理解を促進し、組合員と農家、JA役職員の交流を目的に開催されている。

本年産のメークインは一般的な市場販売が行われるほか、氷室と呼ばれる低温維持された倉庫内で約7カ月保管されたのち、とまこまい広域名物の「氷室メークイン」としてAコープや苫小牧市内のホクレンショップ、北広島市のホクレンくるるの杜で販売される。低温保管の過程で大きく甘みが増す同商品を、毎年待ち望んでいる消費者も多い。

広域

全道JA野球大会

広域野球部らしく
笑顔で戦い抜く

JAとまこまい広域野球部は9月3日、4日にかけて野幌総合運動公園で開催された第63回全道JA野球大会に出場した。各地より集結した15チームが熱戦を繰り広げた。

同部は業務繁忙期につきホクレン苫小牧支所より3名の選手補強を受けて出場。大会要領では選手が12名以下のチームは同一地区より4名まで他チームから補強できる。

初戦の相手はJAあさひかわ。雨が降る中で開始された試合は、フォアボールや守備のミスもあり初回に5失点を喫する苦しい展開に。2回以降の守備では後続が好投をみせ相手打線を封じるも、攻撃では痛烈な当たりが相手守備陣に阻ま



▲ベンチから鼓舞され笑顔で打席に入る高橋選手



▲円陣の様子

れるなど反撃とは至らなかった。6回の表に特大の2ランを被弾し、0対8で試合は終了した。初戦突破とはならなかったが、チームカラーである和気あいあいと全員野球を楽しむ姿を貫き、試合中も笑顔を絶やさず、補強選手やマネージャーも一丸となって本大会を乗り切った。優勝チームはJA道央。当JAを下したあさひかわナインは順調に決勝までカードを進め、決勝戦は4対5で惜しくも準優勝となった。

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	合計
JAあさひかわ	5	1	0	0	0	2	8
JAとまこまい広域	0	0	0	0	0	0X	0

広域

局長らが圃場を視察

胆振総合振興局による農作物生育状況調査

JAとまこまい広域管内の厚真町では8月25日、胆振総合振興局による農作物の生育状況調査が実施され、牧野充局長のほか同局より5名、胆振農業改良普及センター4名、同JAより堀弘幸組合長ら3名が出席した。

同町宇隆地区の石橋公昭JA専務の水稲優良品種決定現地試験圃場では、普及センター職員が品種試験の概要と本年の



▲視察の様子(左:普及センター竹内直洋指導員 右:牧野局長)

気象推移、生育状況を説明。6品種の病害耐性や食味、生育上の特徴などが示され、出席者らは各品種の特徴が当地区での収量に与える影響や今後の普及の可能性について理解を深めた。また、北海道指導農業士である美里地区の酒井逸也さんの圃場では、水稲品種「なつぽし」の「ゆめぴりか」の作付圃場で生育状況を確認したほか、指導農業士の視点も加え生産現場の実情について意見交換が行われた。

調査後、牧野局長から「本年の出来秋は収量、品質はどうか」「気温が高く、かけ流しをしていたと思うが、水は足りたのか」などの質問が挙がった。

○試験品種

- ① ふっくりんこ十上育485号(良食味、いもち病の抵抗性が高い、稈長が長い、粒数多い、高温でも良品質、多収)
- ② そらきりり十北海343号(業務用米、玄米品質や食味劣る、稈長が短い、多収)
- ③ ななつぽし(従来品種)
- ④ ゆめぴりか(従来品種)

広域

JAとまこまい広域「防災の日」訓示

教訓を生かし、防災の意識を日頃から

JAとまこまい広域は9月5日、厚真町の本所総合営農センターで「防災の日」の訓示を行い役職員ら約50名が出席した。2018年9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震で被災した経験を風化させないため、同JAでは同日を「防災の日」としている。

黙とうの後、堀弘幸組合長より非常用設備の点検や期限が近い備蓄品の消費・補充の指示があったほか、BCP計画が随時修正更新されていることにより「震災より7年が経過しましたが、被災の教



▲職員による朗唱の様子

訓を忘れず将来へつないでいかなければなりません」と役職員へ向け訓示が行われた。職員らは「JAとまこまい広域がめざす方向、職員の役割」を朗唱。組合員の負託に応え地域社会に貢献する存在であることを再確認した。

訓示終了後、同JA各給油所に設置している非常用電源の動作確認を実施。災害時の大規模停電が地域住民の生活に多大な影響を与えることを想定し、本田健悟所長説明のもとで、堀組合長らが作動手順や始動を確認した。



▲非常用電源の動作確認(左:堀組合長 右:本田所長)

追分

自然と共に歩んだ学習の集大成

追分米生産振興会協賛 追分小学校5年生「米作学習」稲刈り

安平町追分では、9月10日(水)に安平町ふるさと学習・学社融合推進事業の一環として、追分小学校5年生児童を対象にした「米作学習」が追分米生産振興会の武田忠雄さんの圃場で開催された。

昨年同様5月の「田植え」から始まり、児童たちは裸足になって田んぼに入り、一株一株を手植えする貴重な体験をした。はじめて田んぼに足をいれる児童も多く、その感触に広がった歓声と笑顔は記憶に新しい。手植えされた苗は武田さんの丁寧な管理のもとで順調に育ち、今回2回目の学習となる「稲刈り」を行った。

開催当日は天候に恵まれ、田んぼに集まった児童たちは、収穫作業前に稲の刈り方や稲の縛り方の指導を受け、鎌を手に昔ながらの方法で稲刈りに挑戦。使い慣れない鎌の扱いに戸惑っていたが、それでもすぐにコツをつかむと、そこからは順調に収穫していき、あつという間にすべての稲を刈り終えた。稲刈りを終えた児童からは「思ったより重くて大変だったけど、いっぱい刈れてうれしい」「家で食べるときは、残さず食べたい」といった感想が聞かれ、米つくりへの理解と感謝の気持ちが深まった様子だった。収穫して縛った稲をはさがけし、今回の作業は終了した。



▲稲刈りの様子



▲黄金色に実る稲穂

今回の「米作学習」は「脱穀・精米」を10月初旬に予定しており、自分で収穫した米を食べる日が来るのを今か今かと楽しみにしている。

品質良好・新倉庫運用でさらなる効率化へ



▲収穫直後の馬鈴薯



▲積み込みの様子



▲保管の様子



▲収穫作業の様子

ほのかに秋風を感じる9月8日、追分地区で令和7年度の加工用馬鈴薯の収穫が始まった。
メインの品種は「オホニックチップ」と「きたひめ」の2種類で、どちらも油との相性が良く、ポテトチップスへの加工に適している。
この日、畑ではハーベスターを装着した2台のトラクターが畝を掘り起こしていた。
追分地区の中道理事は、「今年は生育期間を通して例年になく高温が続き、収量や品質に対する不安もあったが、最終的に大きな障害もなく仕上がりは良好で大玉傾向に育っている。長丁場の収穫作業になるが、関係機関と協力し怪我のないように頑張ります」と意欲を燃やしつつ、「消費者により良いカルビー製品を届けられれば、我々のモチベーションも上がる」と話してくれた。

追分地区の作付面積は約29haで、収穫は10月中旬まで続く予定だ。
今年度からは、安平町追分弥生に新設された「追分地区農産物集出荷貯蔵施設」の運用が本格的に始まった。
延床面積945㎡の鉄骨造り平屋建ての施設で、最大1,500tの加工用馬鈴薯を貯蔵できる。
現在、本年度に収穫された馬鈴薯はすでに新倉庫へ搬入されており、収穫から搬入、保管までの流れが効率的かつ安定的に行われている。
新倉庫の活用により、保管能力が強化され輸送や出荷のタイミング調整も柔軟にできるようになった。これにより、馬鈴薯の品質保持と流通の最適化がさらに進むことが期待される。
また、馬鈴薯の収穫期以外には、米や麦といった他の農産物の保管にも活用される予定だ。
年間を通じて地域農業を支える重要なインフラとして、今後の活躍が見込まれる。
収穫現場と新倉庫が連携し、効率的で持続可能な農業の実現に向けた一歩を踏み出した。

コロナ禍などもあり10年ぶり開催

JAとまこまい広域白老支所は8月29日（金）に白老町にあるしらおい創造空間「蔵」にて、白老支所組合員ならびに苦小牧支所西部地区組合員を対象に生産者交流会を開催した。
コロナ禍などもあり平成27年以来10年ぶりの開催となった交流会は、組合員懇談会で要望のあった牛のヨ一ネ病に係る講習会を中心に開催された。
ヨ一ネ病とはヨ一ネ菌という細菌が牛やめん羊、山羊などの反芻動物に感染して起こる家畜伝染病のことであり、発症すると頑固な下痢や激しい消瘦（やせ細り）を起し、やがて死に至る。感染してから数年間症状が現れない長い潜伏期間があり、治療法やワクチンがない伝染病とされている。近年胆振管内では感染頭数が増加しており、ヨ一ネ病の蔓延が危惧されていた。
講習会は講師を北海道胆振家畜保健衛生所に依頼し、

生産者や関係者を含め30名が出席した。講演終了後の質疑応答の時間には、生産者や関係者から日頃の消毒体制や有効な消毒薬についてなど多くの質問があり、防疫意識の高揚がうかがえた。
出席されたある生産者は「ヨ一ネ病はもはや他人ごとではない。日頃からどう対策していくか考えなくてはいいけないが今回の講習会はいきつけになった」と話していた。

講習会の後、夜には懇親会が催され29名が出席した。久方ぶりの生産者交流会ということもあり、組合員や関係者で昼間の講習会や日頃の家畜飼養管理方法などの会話を花を咲かせていた。

閉会時間が迫るころには、生産者同士で次回の講習会について議題をどうするかなど議論されており、興奮冷めやらぬ中、盛会裏に交流会は終了した。



▲白老牛の店いわさき「おもてなし亭」にて懇親会の様子



▲講習会の様子

デントコーン収穫作業開始

JAとまこまい広域では8月25日（月）より、農事組合法人「らくのう」（谷口隆昌組合長）による「デントコーン」の収穫作業が始まった。
農事組合法人「らくのう」は、同JA管内における酪農及び各農業分野の生産者によって構成され、ハーベスター等を導入し、集団共同利用することで農作業効率化、労働生産性向上と地域農業の安定化を図る目的で設立されたコントラクターで、取組開始から11年目を迎える。

今年度の収穫作業面積は、苦小牧地区・早来地区・追分地区・厚真地区 計19件分で約300haある。自走式ハーベスターで刈り取られ細断されたデントコーンは、大型タンク等で各生産者のもとへ運ばれ、サイレージへ調整される。
今年の作柄について担当者は、「高温の影響により例年よりも熟期が進み、1週間程早く作業開始となった。茎や実が細いので、収量は平年より少なく見込んでいる。天候次第ではあるが、適期収穫を心掛け、少しでも良質なデントコーンの確保に努めたい」と話す。

作業は順調に進み10月中旬まで行われる。



▲大型ハーベスターでの収穫の様子（安平町早来）

令和7年11月からの営業時間一覧表

		本所・ 厚真支所	上厚真 事業所	早来支所	追分支所	穂別支所	白老支所	苫小牧支所	ホクレンショップ (苫小牧店・沼ノ端 店・しらかば店)	生乳検査場	死亡牛処理
一般業務	平日	9:00 〓 17:00	—	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	—	持込 12:00 まで	9:00 〓 17:00
	土曜日	休 業	—	休 業	休 業	休 業	休 業	休 業	—	休 業	休 業
金融業務	平日	9:00 〓 16:00	—	9:00 〓 16:00	9:00 〓 16:00 (12:30 〓 13:30 休業)	9:00 〓 16:00	9:00 〓 16:00 (12:30 〓 13:30 休業)	9:00 〓 16:00	—	—	—
	土曜日	休 業	—	休 業	休 業	休 業	休 業	休 業	—	—	—
ATM	平日	9:00 〓 18:00	9:00 〓 18:00	9:00 〓 18:00	9:00 〓 18:00	9:00 〓 18:00	—	—	9:00 〓 21:00 しらかばのみ 9:30 〓 20:00	—	—
	土曜日	休 業	休 業	休 業	休 業	休 業	—	—	9:00 〓 17:00	—	—
	日曜日 祝日	休 業	休 業	休 業	休 業	休 業	—	—	9:00 〓 17:00	—	—
生産資材	平日	9:00 〓 17:00	—	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	9:00 〓 17:00	—	セブン イレブン・ ローソン ATMの 取扱時間 平日 8:00 〓 22:00 土曜 8:00 〓 21:00 日曜 8:00 〓 21:00 祝日 8:00 〓 21:00	—	—
	土曜日	休 業	—	休 業	休 業	休 業	休 業	—	—	—	—
農機車両 センター	平日	9:00 〓 17:00	—	—	—	9:00 〓 17:00	—	—	—	—	—
	土曜日	休 業	—	—	—	休 業	—	—	—	—	—
給油所	平日	8:00 〓 18:00	8:00 〓 18:00	8:00 〓 18:00	8:00 〓 18:00	8:00 〓 18:00	—	—	—	—	—
	土曜日	8:00 〓 17:30	8:00 〓 17:00	8:00 〓 13:00	8:00 〓 13:00	8:00 〓 17:30	—	—	—	—	—
	祝日	休 業	休 業	休 業	休 業	休 業	—	—	手数料 110円/回 の取扱時間 平日 8:45 〓 18:00 土曜 9:00 〓 14:00 上記取扱 時間以外 及び 日曜・祝日 の手数料 220円/回	—	—
A コープ	平日 土曜日	9:00 〓 18:00	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	祝日	休 業	—	—	—	—	—	—	—	—	—

米の受け入れ開始
各部署より職員が応援に

JAとまこまい広域は9月4日より、厚真町上野地区にある米の乾燥調製施設「たんとうまい(胆東米)ステーション」及び「ライスセンター」にて、粳の受け入れを開始した。各施設で半乾の粳と生粳を区分して受け入れる。



▲乾燥調製設備に投入される様子



▲応援職員による荷受操作

初日は生産者19件分、約150tが持ち込まれ、施設職員のほか各部署より応援に駆け付けた職員が対応した。当JAでは繁忙期対応として職員による受入応援を実施しており、リフト作業をはじめとした荷受業務を行う。ピーク時は、地区ごとに搬出スケジュールを設定し計画出荷を実施。1日300t以上を受け入れる日もある。職員応援は10月上旬まで続き、以降も施設担当者による乾燥調整作業が行われる。

最終的に、当JA管内における本年産米の取扱量は約12,000tを見込んでいる。

【穂別】JAとまこまい広域米生産振興会穂別支部

令和7年産米初検査

令和7年産米の初検査が9月10日、JAとまこまい広域穂別支所米検査場にて行われ、キウス地区の中村由美さん(71歳)、茂別地区の清瀬利一さん(56歳)、平丘地区の清川伊代さん(43歳)が初出荷を飾った。

当日は、「ななつぼし」672袋(30kg袋)が検査され、全量1等米という幸先の良いスタートとなった。

本年の水稲は、6月から記録的な高温で経過したため、生育は直近10年間で最も早く進んだ。その結果、稲刈りは昨年よ



▲検査の様子



▲初出荷を飾った、中村由美さん(写真右)、清川伊代さんの父 三十四さん(写真中央) 清瀬利一さん(写真左)

り3日早い、8月28日から始まっている。

初出荷に合わせて行われたセレモニーでは、堀弘幸組合長の他、各関係機関が参列し、出荷者に記念品を贈呈した。

開会にあたり堀組合長は「今年は雨が少なく、気温が高い状態が続き、影響が心配されたが、全量1等米という結果を聞いて安心している。作業中の事故に十分注意して、この後も頑張っ

て欲しい」と挨拶。初出荷に際し、清瀬さんは「暑い日が続く、水の管理や草刈りに苦労した。広域産の美味しいお米を店頭で見かけたら、ぜひ味わって貰いたい」と笑顔で話した。

さんさんかがわ 期待の農力



“おもしろさ”を追求して



こばやし ひろかず
小林 広和さん(41歳) 厚真町幌里

農業を志したきっかけ

昭和58年11月9日に北海道札幌市で生まれる。市内の高校を卒業後、美容師を志し専門学校へ進学、就職は東京を選び15年間美容師として務めた。就農して4年目を迎えた現在は厚真町の幌里地区にてイチゴハウス17棟(うち観光農園4棟、カボチャ3ha)を経営。妻と4人のお子さんと暮らしている。

最初に関心を抱いたのは2011年の東日本大震災のとき。自身の生活を見直した際に都会で暮らしていることに疑問を抱き、大自然のなかで営む農業が選択肢に浮かんだ。苦慮の末断念することになるが、7年後の34歳で再び農業を志すタイミングがきたという。結婚して子どものアレルギーなどもあり、食べ物や生活環境などを考えた。色々考えるうちに自分で作ってみようと思った」と、移住し農業へ携わることを決心した当時の心境を語ってくれた。厚真町の農業担い手育成センターの研修農場生となり、農家への一歩を踏み出した小林さん。3年間農業のノウハウを学んだのちイチゴ農家として

実際に就農して

「1・2年目は全然うまくいかなかった。ハウスの増棟など設備投資に資金を費やす一方で、イチゴの実りが良くなり売り上げも振るわなかった」と語り、就農直後の苦労を振り返った。転機が訪れたのは3年目。町外でイチゴ農家を営む方と知り合い、栽培管理を教わることとなる。「1・2年目の倍とれるようになった。販路の拡大もありようやく投資に見合う成果を得ることができた。やるべきことを当たり前に実践すれば結果がついてくる農業のおもしろさを感じたのもこのとき」と小林さん。新たなチャレンジなくしておもしろさはついてこないという信念のもと、カボチャ栽培に挑戦したのもこの年。水害や病害もあり思うように収穫できなかったが、「4年目の今年はたくさん獲れた。イチゴとカボチャがかる時期は本当に忙しい」と苦笑いながらも確かな手ごたえを感じている様子であった。

今後の目標

今後について小林さんは「これまでではモノに投資してきた。これからヒトに投資していきたい」と語る。経営規模を拡大していくなかで、自身と家族、短期労働者だけでは限界がある。人材を雇い育成することに注力し、農園管理の一端を担ってもらう存在を作ることができればそれもまたおもしろさなのだという。将来的には「こばやしちが農園」をテーマパークのような場所にしたい。イチゴ狩りのほかにイチゴのスイーツや加工品販売、カフェやキッチン、犬と遊べる場所にしたり…挙げればきりがなしとおもしろさを追求する自身の思いを語ってくれた。

理事会報告

令和7年9月5日(金)に総合営農センターで第9回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。



報告事項

1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 7月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得・処分について
5. 第2四半期余裕金運用について
6. 外部出資先の経営状況について
7. 令和7年度7月期(半期)ディスクロージャー誌について
8. 経営定期点検の結果について
9. 内部監査の結果について
10. 第2回管理委員会の結果報告について
11. 第3回生産委員会の結果報告について
12. 第71回ALM委員会報告について
13. 第3回コンプライアンス委員会報告について
14. 令和7年度産地交付金メニューについて
15. JAとまこまい広域杯少年サッカー大会について
16. 令和7年産新米贈呈について
17. 令和7年産新米キャンペーンについて
18. 令和7年産小麦の調製状況について
19. 要対策組合員資産状況確認結果について
20. 大口貸出先上位50件の経営状況報告について
21. 信用供与50,000千円を超える組合員の経営状況報告について



協議事項

1. 令和7年産米集荷販売に係る取組方針について
2. 令和7年産特定米穀の集荷取扱要領について
3. 令和7年産小豆・黒豆等の集荷取扱要領について
4. 第2四半期仮決算(収支予測)について



協議事項

- 議案第 1 号 手数料の改定について
 議案第 2 号 取引のリスク評価書の改正について
 議案第 3 号 災害対策規程およびサイバーセキュリティ対策に係る災害対策計画(BCP等)の一部改正について
 議案第 4 号 財務管理規程の一部変更について
 議案第 5 号 出資の減口と譲渡について

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

令和7年に問題となった 主な病害虫

本年の農耕期間も高温傾向の気象が続き、これまで発生が少なかった病害虫の多発や、北海道では未発生だった害虫の飛来がありました。今後も同様の気象条件が続くとも言われています。次年度以降に向けても警戒しましょう（※記事中で例示している薬剤は、執筆時に登録があるものです。次年度の薬剤選択に当たっては、防除ガイドや随時発行するFAX情報等を参考にしてください）。

1 小麦の赤さび病

①特徴

- ・地上部の各部位に赤褐色、短楕円形の小さな斑点（直径約1mm）ができます。上位3葉の病斑面積率は収量に強く影響します（写真1）。
- ・5～6月の高温多照が本病の発生を助長します。
- ・「ゆめちから」は「きたほなみ」よりも抵抗性が強いとされていましたが、近年は「ゆめちから」でも発生が見られます。

②防除対策

- ・次葉展開期～止葉期にミリオネアフロアブルやイントレックスフロアブルによる赤さび病を対象とした防除（いわゆる0回目防除）を行い、開花始には赤かび病との同時防除を行います。



写真1 赤さび病

2 大豆のウコンノメイガ

①特徴

- ・幼虫は糸を吐いて1～数枚の葉を縦長の円筒状に巻き込み、糸で綴り合わせ、その中に潜んで食害します（写真2）。
- ・富山県では、本種による捲葉が最も多くなる8月下旬の1個体あたり平均捲葉数が20を超えると子実が小粒化して減収するとされています。

②防除対策

- ・当地域において令和6、7年は7月下旬頃に発生しており、マメシンクイガとの同時防除ができました。
- ・同時防除の際にプレバソンフロアブル5の散布により、被害を軽減している事例があります。



写真2 葉巻状態と幼虫

3 てんさいのシロイチモジヨトウ

①特徴

- ・府県ではねぎ、キャベツ、うり科野菜で被害が多く、国外ではてんさいでも重要害虫とされています（写真3）。道内での露地越冬は困難とされていることから、発生は南方からの飛来によるものと考えられます。
- ・成虫は、体長約15mmで全体的に灰褐色をしており、前翅には白色～黄褐色の斑紋を持ちますが、斑紋は不鮮明なことが多いです。シロオビノメイガ成虫とは見た目が異なります。
- ・幼虫の体色は個体間差が顕著で淡緑色から黒紺色まで様々ですが、中齢以降の幼虫の腹部側面に明瞭な白い線があることが特徴です。

②防除対策

- ・各種薬剤の感受性低下が報告されていることから、防除数日後に散布効果を確認して加害が止まらない場合は他系統薬剤を散布します。てんさいでは、ディアナSCやプロフレアSCの散布で効果を上げている事例があります。



写真3 被害の様子

ワンポイント営農情報

水稻 作物の生育健全化のためケイ酸を入れよう！



近年高温の影響により、倒伏や品質低下が問題となっています。対策技術として、ケイ酸を紹介します。

①ケイ酸 の効果

- ・根の健全化・受光態勢の改善
- ・下葉の枯れ上がりの軽減
- ・稈質の強化による耐倒伏性や耐病虫性向上
- ・葉温上昇抑制によるストレス軽減
- ・登熟能力の向上・不稔軽減
- ・窒素当たりの玄米生産効率が高まる

収量や品質の向上



②ケイ酸 肥料の種類

(1)粒状ケイカル



保証成分(%)		
可溶性ケイ酸	アルカリ分	＜溶性苦土
30	45	1

(2)スーパーミネカル 粒状5号



保証成分(%)			含有成分(%)
可溶性ケイ酸	アルカリ分	＜溶性苦土	酸化鉄
19	43	2	7.0～8.0

(3)テツシリカ



保証成分(%)			含有成分(%)
可溶性ケイ酸	アルカリ分	＜溶性苦土	酸化鉄
25	41	4	13～15

土壌診断分析を実施し、可給態ケイの数値を把握しましょう。
分析結果に基づいて不足分を補い、バランスの良い土づくりをしましょう。

JA 日誌

2025 10月

16日 木	
17日 金	
18日 土	ホクレンショップ新米キャンペーン（しらかば店）
19日 日	第12回苫小牧漁港ホッキまつり
20日 月	ホクレン酪農畜産本部長来所
21日 火	第9回企画会議 4地区営農販売担当部課長視察研修（東京、石川、富山）～24日
22日 水	昭和産業来所（豆施設、大豆圃場） JA日胆地区女性協議会 第3回理事会（苫小牧）
23日 木	第5回地区担当理事会議 第7回監事会 第10回理事会
24日 金	
25日 土	全日本ホルスタイン共進会（早来）～26日
26日 日	故・宮田広幸前組合長一周忌（穂別）
27日 月	
28日 火	秋の淹本協力会（登別）
29日 水	
30日 木	秋の農機展示会～31日
31日 金	

2025 11月

1日 土	第22回ジェネティクス北海道黒毛和種枝肉共励会（帯広）
2日 日	
3日 月	文化の日（祝）
4日 火	
5日 水	日胆組合長会、作物別対策委員会 予定
6日 木	常勤理事研修（JAカレッジ）～7日
7日 金	
8日 土	
9日 日	
10日 月	
11日 火	
12日 水	4地区農協監事協議会 道内視察研修（オホーツク方面）～14日 みのり監査期中Ⅱ～14日
13日 木	ホクレン肉牛市場
14日 金	ホクレン乳牛市場 ALM委員会、コンプライアンス委員会 予定
15日 土	令和7年度 日胆黒毛和種枝肉共励会

皆さまの「健康生活」を応援します。



健康ふれあい館の開催中は、組合員様、地域の皆様が、
血行改善に効果がある交流磁気治療器を
1日1回(20分程度)体感できます。
身体の不調がある方はぜひお試しください。

- 開催場所：Aコープ厚真店内
〒059-1693 厚真町錦町10番地の2
- 受付時間：午前の部 午前10:00～午後 1:00
午後の部 午後 2:00～午後 5:30
- 休館日：日曜日・祝日・第2・4月曜日
※休館日以外は毎日開催中！
- 問合せ：Aコープ厚真店 0145-27-3102

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月日	地区	氏名	享年
9/5	安平町	川田 俊一さん	77
9/19	安平町	西川 初雄さん	92
9/21	むかわ町	山下富美子さん	92

ホクレン南北海道黒毛和種市場

広域農協支所別取引成績(10月)

令和7年9月11日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢/体重(kg)	平均kg/単価(円)
白老	去勢	34	693,588	1.185	2,033
	雌	9	511,111	0.980	1,742
早来	去勢	24	700,667	1.162	1,956
	雌	13	542,154	1.051	1,542
厚真	去勢	18	710,111	1.201	1,981
	雌	17	563,353	1.076	1,707
穂別	去勢	21	664,190	1.136	2,019
	雌	23	573,348	1.050	1,774
追分	去勢	11	654,364	1.182	1,781
	雌	5	564,400	1.056	1,619
とまこまい 広域	去勢	108	688,204	1.173	1,977
	雌	67	555,731	1.048	1,693
胆振管内	去勢	194	674,268	1.166	1,941
	雌	117	533,239	1.032	1,654
市場計	去勢	878	683,019	1.153	2,009
	雌	604	553,623	1.025	1,760

JA からのお知らせ

JAへの就職希望者100%就職 (令和6年度実績) 令和8年度入学生第2回募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年●寮完備(個室)/通学も可
- 受験資格：満27歳未満(令和7年4月1日現在)/大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日：12月6日(土)●願書受付：10月1日(水)～11月21日(金)消印有効
- オープンキャンパス随時開催中

JAグループ職員養成校



一般財団法人

北海道農業協同組合学校

〒069-0834 江別市文京台東町 43-1

☎0120-918-417 【JAカレッジ】で検索

厚真町の小中学校へ花贈呈

9月19日、厚真町花卉部会(桐木洋光会長)は厚真町の教育委員会にて町内の小中学校へ向け花を贈呈しました。手渡された花は部会員が丹精込めて育てた菊やカーネーションなど。同部会では“花育(はないく)”と称し、町内の子どもたちに花を通じた教育交流活動を行っています。



花束を受け取る遠藤秀明厚真町教育委員会教育長と桐木会長

2025日胆畜産共進会で準最高位獲得

9月18日、安平町の北海道ホルスタイン共進会場で2025日胆畜産共進会(乳用牛の部)が開催され、苫小牧市の五十嵐貴満さんが出陳した「リッチモンド アイキヤンドウ イット ハーゲン」が経産の部で準最高位に輝きました。当JA管内では厚真町の山田美晴さん、苫小牧市の(有)溝口農場の出品牛とあわせて計3頭が、10月25日～26日に同会場で開催の全日本ホルスタイン共進会に出場します。

農作業中の労働災害に気を付けましょう

収穫作業が終盤に差し掛った10月以降は、日も短くなり、疲れ・焦り・夜間作業での農作業事故が多発します。特にトラクターや機械の整備、作業中の事故が多く死亡に繋がるケースも発生します。畜産関係では、家畜との接触による怪我など1年を通して発生しています。また牧場から家畜が脱走し車との接触事故などの事例も発生する可能性がありますので、十分に注意を払い作業を行いましょう。